

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：会議出席率	指標の求め方：会議の延べ出席委員数/会議回数×社会委員数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：社会教育委員の意見聴取率	指標の求め方：社会教育委実施計画評価アンケート提出件数/社会教育委員数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
指標	活動指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	90 88	90 81	90 80		90 70	90 70	90 70		90 80	90 80	90 80	90 80		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	60 67	60 73	60 73											
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					少し上がっている										
	総合評価					良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 活動指標は目標値を若干下回っているが、社会行政に広く地域の意見を反映させた社会教育行政・社会教育事業の推進を図るための重要な仕組みの1つであることから、継続して実施する必要がある。	自己分析： 活動指標は計画値を若干下回っているが、成果指標は昨年度より上回っている。社会教育委員会議での協議だけではなく、委員一人ひとりが地域住民の一人として感じたことを評価としていただいたことにより、より広く地域の意見を反映させた社会教育実践方針や社会教育実施計画等の策定に生かされている。	自己分析： 活動指標は計画値を下回り、成果指標は昨年度から横ばいであった。委員の多忙化により出席率が低下したことが原因と考えられる。社会教育委員会議は地域住民の一人として感じていただいたことにより、より広く地域の意見を反映させて意見を述べていただくことで、広く地域の意見を反映させた社会教育行政の推進を図る重要な会議体であるため、委員の担い手の確保に努め安定的な運営を維持する必要がある。	判断理由： 活動指標は計画値を若干下回っているが、成果指標は計画値を上回った。社会教育委員会議での協議だけではなく、委員一人ひとりが地域住民の一人として感じたことを評価としていただいたことにより、より広く地域の意見を反映させた社会教育実践方針や社会教育実施計画等の策定に一定の成果があった。効率性については、研修会にオンラインで参加することにより費用弁償の支出が抑えられ、経費の縮減が図られたことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析： 自己分析： 自己分析： 判断理由： 自己分析： 自己分析： 自己分析： 判断理由： 自己分析： 自己分析： 自己分析： 自己分析： 判断理由：										
今後の方向性						現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 委員の欠員等により会議の延べ出席委員数が減少しているものの、定例会議や専門部会、特別委員会を開催することに加え、社会教育実施計画評価アンケートを実施し委員一人ひとりが地域住民の一人として感じたことを評価としていただいている。より広く地域の意見を反映させた社会教育事業の推進のためには欠かせない重要な仕組みであることから、「現状のまま継続」とする。 なお、令和8年度の学校統合に向け、学校教育関係者をはじめとした委員構成の見直しを検討する必要がある。					R8： R10：										

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: オアシス通信発行部数	指標の求め方: 月の発行部数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 町内会の配布率	指標の求め方: 配布町内会数/町内会数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/部)	計画値 実績値	3,100 3,100	3,100 3,100	3,100 3,100		3,100 3,100	3,100 3,100	3,100 3,100		3,000 3,000	3,000 3,000	3,000 3,000	3,000 3,000	
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 100	100 100	100 100		100 100	100 100	100 100		100 100	100 100	100 100	100 100	
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない									
	総合評価					良好である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 生涯学習情報を提供する広報紙として認識され、広報「すながわ」と異なる配布手段とすることで、相互補完的な情報発信媒体としての効果がある。学習活動に取り組む団体や個人、学校関係行事など、紙面構成・内容の充実を図る。	自己分析: 町内会のみならず家庭教育サポート企業、学校や保育所、老人クラブなど様々な場面で情報提供を行い、活動指標、成果指標ともに計画値を達成した。生涯学習情報を提供する広報紙として認識され、広報「すながわ」と異なる配布手段とすることで、相互補完的な情報発信媒体としての効果がある。	自己分析: 町内会のみならず家庭教育サポート企業、学校や保育所、老人クラブなど様々な場面で情報提供を行い、活動指標、成果指標ともに計画値を達成した。令和5年度より砂川高校全校生徒への配付を開始し、青年世代への生涯学習情報の提供の強化を図った。また、市公式LINEにおいても事業の周知や開催報告を行い、市民のニーズに合った情報発信に努めている。	判断理由: 活動指標、成果指標ともに計画値を達成し、町内会のみならず家庭教育サポート企業、学校や保育所、老人クラブなど様々な場面で情報提供を行い、また、学習活動に取り組む団体や個人、学校行事関係などを掲載し紙面構成・内容の充実を図った。効率性については大きく変化していないことから、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5: 地域に密着した生涯学習情報を情報誌として広く市民に周知することで、生涯学習に取り組むきっかけづくりとなることから、掲載内容の充実を図りながら「現状のまま継続」とする。				R8:				R10:						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 学習相談を受けた件数	指標の求め方: 1年度中に受けた学習相談の件数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 学習支援を受けた人の満足度	指標の求め方: 利用者アンケートで事業目的が達成されたと回答した人の割合

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	10 14	10 1	10 2		10 80	10 80	10 80		10 80	10 80	10 80	10 80		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	80 86	80 —	80 —											
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 市民や学校の多様な学習ニーズに応じて相談を受け、情報の提供等を行っている。新型コロナウイルス感染症の影響により、紹介した内容での事業実施に至らないことがあった。	自己分析: 学校からの学習支援等の相談を「地域学校協働本部事業」の実績としたことから活動指標の実績値は大きく下がった。成果指標については、利用者アンケートを実施していないため実績値には表れていないが、相談内容に適合した情報提供を行った。	自己分析: 学校からの学習支援等の相談を「地域学校協働本部事業」の実績としたことから、活動指標の計画値は達成しなかった。成果指標については利用者アンケートを実施していないため実績値には表れていないが、相談内容に適合した情報提供を行った。	判断理由: 学校からの学習支援等の相談を「地域学校協働本部事業」の実績としたことから活動指標が下がったが、市民や地域からの学習相談内容に適合した情報提供を行った。効率性については、事業にかかる直接的な経費を必要とせず大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「普通である」と判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5: 市民や地域からの相談内容に適合した情報提供を行うことにより生涯学習に取り組むきっかけづくりとなることから、地域学校協働本部において整備する「学習支援等ボランティア人材・団体バンク」の充実を図りながら活用するとともに適宜周知を行うため「現状のまま継続」とする。					R8:					R10:					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：学習体験数	指標の求め方：学習体験ができるコーナーの数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：事業目的の達成度	指標の求め方：参加者アンケートで事業目的が達成されたと回答した人の割合

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期			
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計		
指標	活動指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	20 —	20 —	20 19		20 —	20 —	20 —		20 —	20 —	20 —	20 —				
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 —	100 —	100 98		100 —	100 —	100 —		100 —	100 —	100 —	100 —				
事業 評価	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				あまり達成されていない												
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない												
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない												
		総合評価				普通である												
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響により、例年行っている様々な体験ができるコーナーを設置し実施する事業は中止となったため、各指標に該当する実績値はない。生涯学習市民の集い実行委員会及び社会教育委員会議において、協議を行い、代替の企画として、謎解き集の発行、自由工作の募集・展示を行った。	自己分析： 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な体験ができるコーナーを設置し開催する事業は中止となったため、各指標に該当する実績値はない。生涯学習市民の集い実行委員会及び社会教育委員会議において、協議を行い、代替の企画として、謎解き集の発行、自由工作の募集・展示を行った。	自己分析： 4年ぶりに公民館全館に様々な体験ができる出展ブースを設置する形式で実施し、活動指標は計画値に及ばなかったものの、成果指標はほぼ計画値を達成した。社会教育委員が実行委員となることで市民目線の事業が企画・運営され、市民が気軽に学習活動に取り組むきっかけとなり、生涯学習の推進が図られた。	判断理由： 新型コロナウイルスの影響により事業を中止したため活動指標・成果指標ともに数値化できないが、謎解き集の発行や自由工作の募集・展示を行うことで生涯学習に取り組むきっかけづくりとなるよう代替企画を実施し、体験を通じた学習機会の提供に一定の成果があったと考えられる。効率性については、事業にかかる直接的な経費を必要とせず大きく変化していないことから、「普通である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：			
	今後の方向性				現状のまま継続													
	方向性の判断理由改善、改革の内容(R5、R8、R10)	R5： 新型コロナウイルス感染症の影響により様々な体験ができるコーナーを設置し開催する事業は実施できなかったものの、謎解き集の発行などにより生涯学習に取り組むきっかけづくりとなるよう代替企画を実施した。 令和5年度からは新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられ、今後はコロナ禍前同様の事業を実施していく見込みであることから、「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：事業参加人数	指標の求め方：事業参加人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：事業目標の達成度	指標の求め方：参加者アンケートで事業目的が達成されたと回答した人の割合

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画 合計
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	40 —	40 81	40 70		40	40	40		40	40	40	40		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 —	100 97	100 91		100	100	100		100	100	100	100		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 講師選定の段階から老人クラブ連合会と連携して講演会の内容を精査し、研修会後の開催とすることで多くの高齢者が参加できるように配慮して計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により事業が中止となったため、各指標に該当する実績値はない。	自己分析： 3年ぶりの事業開催となり参加者は令和元年度の44人から大幅に増加、活動指標が計画値を大きく上回った。コロナ禍により高齢者の健康維持等への関心がより高まっていると考えられる。成果指標については計画値をほぼ達成しており、講師選定の段階から老人クラブ連合会と連携して講演会の内容を精査することで参加対象者のニーズに適した内容で実施できている。	自己分析： 昨年度より活動指標は減少したものの計画値を大きく上回り、成果指標は計画値をおおむね達成した。コロナ禍の影響により高齢者の社会活動が停滞している中、高齢者の実生活に即した知識を習得する動機づけの機会を提供することができた。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した期間があったが、再開後はコロナ禍による高齢者の健康維持等への関心の高まりなどから活動指標は大きく上回った。成果指標もほぼ達成していることから、健康維持や生きがいづくり、多様化・複雑化する社会変化への対応に関する知識・技能の取得に一定の成果があったと考ええる。効率性についても国・道の補助を活用することにより経費の削減が図られていることを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 介護予防につながる学習機会の確保は重要であり、砂川市老人クラブ連合会と連携しつつ、学習ニーズを丁寧に把握しながら「現状のまま継続」とする。					R8：					R10：					